

平成24年度 米子南高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

鳥取県立米子南高等学校の起源は昭和2年創立の県立蚕業学校に遡り、以後、校名変更・改組を経て平成13年4月に現在の校名に改称された。教育目標を、①「基礎基本の徹底」により「学力の向上」に努める、②「勤勉」と「友愛」の精神を養い、「自主的」で「社会性」豊かな精神を養う、③「専門的技能」の習得と研鑽に励み、社会に貢献する資質を培う、とし、更に中長期目標として、「社会人として必要な規範意識、人間関係力を身につけ、一般教養と専門的技能をもって、地域社会の発展に寄与できる人材の育成を図る」ことを掲げている。

評価資料並びに2回の学校視察と聞き取り結果から、同校は上記目標に沿った教育を丁寧な実践に移し、順調に運営されていると判断することができる。即ち、校内における基礎的・基本的な学習や部活動に留まらず、地域や社会と連携した応用・実践的な学習を積極的に推進し、学校が目指す地域社会の発展に寄与する人材育成に大いに役立っている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展させていただきたい主な事項である。

- ① 専門高校としての特性を活かしながら魅力あるカリキュラムを通して、実社会で必要とされる実務能力や資格等を取得・習得できる体制が整備され、生徒も前向きに取り組んでいる。
- ② 各科、各コースが課題研究の授業を中心にして、特色のある研究、体験活動、発表に取り組んでいる。特に、校外の専門家によるレベルの高い指導を積極的に受け入れたり、地域の行事へ積極的に参加している。発表活動を通じて学校外に積極的にアピールすることによって評価が高まり、生徒の自信と学習の質の向上につながっている。
- ③ 校内が良く整備されている。明確な環境目標を設定し、環境活動が効果的にできている。併せて、生徒の表情が明るく、挨拶がきちんとでき、その結果校内の雰囲気が良い。
- ④ 図書館活動に優れた工夫がなされている。読む・調べる・考える場の提供であると共に、学習成果物の展示や交流の場となっている。図書館を利用した授業も成果をあげている。
- ⑤ PTA役員だけでなく、有志による地域巡視が伝統的に行われるなどPTA活動が活発であり、生徒の安全確保や教育環境の向上を積極的に支援している。
- ⑥ 特別支援教育の研究や特別支援体制の整備が積極的になされているなど、特別支援教育への取り組みが充実している。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 上記①②のように特色ある取り組みが積極的になされている反面、学校全体としての特色やアイデンティティ（米子南高校はどういう学校か）が明確に伝わっていない。生徒募集や認知度に良い効果を得るためには、商業学科及び家庭学科の特色や方向性を明確に表現することが必要である。
- ② 教職員は目標に向けた取り組みや、問題解決に向けた取り組みで、日夜負担が大きく非常に多忙な様子がうかがえる。心身ともに健康を保たれるよう希望する。
- ③ 本校舎から体育館への移動において、一般道路を通ることが避けられず、非常に危険である。教育委員会と連携して、早急に対応する必要がある。
- ④ 教室の整理整頓が不十分であったり、黒板（白板）の端に授業以外の情報が書かれていたりする教室がいくつかあった。教育の場に相応しい環境に保つ必要がある。